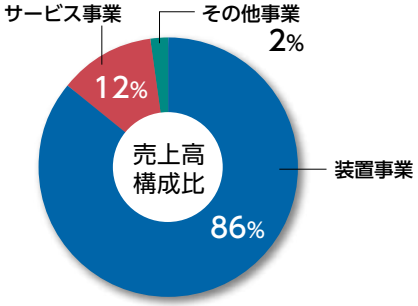
事業セグメント別概況



※連結消去△197百万円

〈装置事業〉
- 環境試験器
- エナジーデバイス装置
- 半導体関連装置

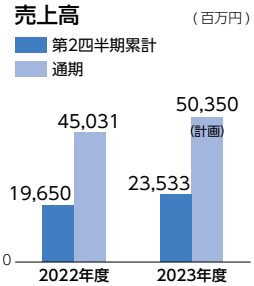
〈その他事業〉
- 環境保全
  森づくり・水辺づくり・都市緑化
- 植物育成装置
  植物工場、研究用育苗装置

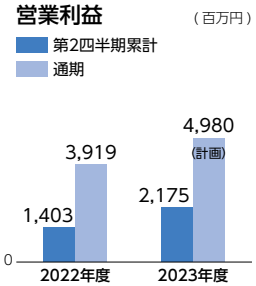
〈サービス事業〉
- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

装置事業

環境試験器については、国内市場では、受注高は前年同期比で汎用性の高い標準製品が減少したものの、カスタム製品は自動車関連を中心に増加しました。売上高は、標準製品・カスタム製品ともに増加しました。海外市場においては、受注高は前年同期を下回ったものの、売上高は主に北米、欧州が増加しました。
エナジーデバイス装置については、EV・バッテリー向けの投資拡大により、主に国内において充放電試験用チャンバーが好調に推移し、受注高・売上高ともに前年同期比で大幅に増加しました。
半導体関連装置については、主にメモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高は前年同期比で減少し、売上高は前年同期並みとなりました。
装置事業全体では売上高は19.8%増加し、営業利益は販管費が増加したものの主に増収により55.0%増加しました。

降雨や霧、降雪環境を再現できる当社「全天候型試験ラボ」
自動運転用センサーの性能評価方法を研究

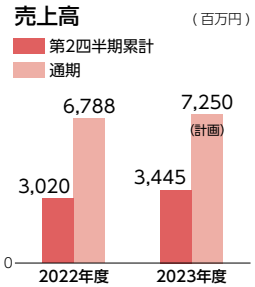


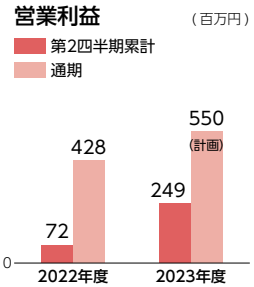


サービス事業

アフターサービス・エンジニアリングについては、予防保全・修理サービスともに堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加しました。受託試験・レンタルについては、車載用バッテリーを中心に受託試験が堅調に推移し、受注高・売上高ともに増加しました。サービス事業全体では売上高は14.1%増加し、営業利益は増収および受託試験での原価率改善により244.7%増加しました。

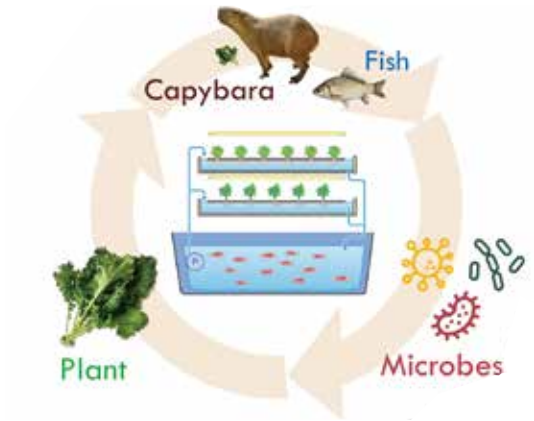
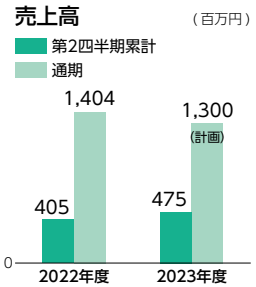
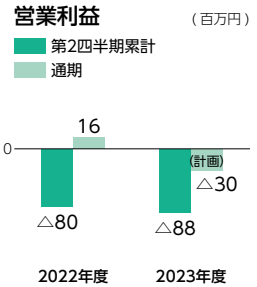
バッテリー安全認証センター（宇都宮テクノコンプレックス内）
車載用バッテリー向け試験設備を増強





その他事業

環境保全事業および植物育成装置事業を中心とするその他事業では、受注高は森づくりや植物研究用装置が低調となり前年同期比で12.3%減少しました。売上高は、新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスの納入などにより17.5%増加しました。しかしながら、原価率の悪化により88百万円の営業損失となりました。



アクアポニックスを活用した物質循環システム（イメージ）
川崎水族館および日本大学と共同で実証実験を開始